



北海道大学札幌農学校第2農場 ～クラークの意志が宿る近代農業モデル施設～



「札幌農学校第2農場」は、クラーク博士の大農構想により、1877（明治10）年に建築した模範家畜房（モデルバーン）や穀物庫（コーンバーン）をはじめとするわが国最古の洋式農業建築群を揃えており、ここから日本の畑作・酪農の技術普及が進んだ。施設内には、明治初期に輸入したアメリカ製畜力機械など、近代農業史を語る貴重な資料も展示されており、例年春から秋には一般公開も行われている。